

都心の中学生に農山村の体験・交流を実施（武蔵高等学校中学校）

「東京の子どもに『帰れるいなか』を作りたい」

私たちの素朴な思いが、プロジェクトとなって日の目を見ました。

7月13日（水）～16日（土）に武蔵高等学校中学校（東京都練馬区）の中学2年生の夏季学校として、群馬県みなかみ町での農山村での民泊家業体験、同町、沼田市、川場村、片品村の民泊先の方々との交流を行いました。

少子化や人口の集中が進んだ都会の子どもたちには、農山漁村は、「異文化体験」なのかもしれません。しかし多感なこの世代に、農山漁村の風景、そこで暮らす農山漁村の方々と生活を共にし、気持ちを通じ合わせる機会を得ることは、都会で生活していく子ども達に広い視野と生長を促すと共に農山漁村の方に、都会の生徒たち双方に「絆」を作れると期待しています。一過性の「旅」ではない、「何度も帰れるもう一つの居場所」を農山漁村に作りたい。

弊機構は、農山漁家の方々と、年に移住される方々との橋渡し役として活動を行っています。このような活動にご理解、ご興味のある学校、教育関係者、農山漁村の自治体、農山漁家のグループのご連絡をお待ちしております。

【問い合わせ】

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

担当：花垣、長谷川

電話：03-4335-1987

email：kodomo@kouryu.or.jp



歴史学習

沼田城、名胡桃城、縄文遺跡の矢瀬遺跡を巡り地域の歴史学習を実施



民泊実習

全21家に分かれ実施された民泊実習。各家では、各々様々な農業や生活体験を実施。この写真は、郷土食の笹ちまきづくりの様子。



みなかみ課題発見プログラム

みなかみ町のたくみの里を舞台とした「課題発見型ウォークラリー」を実施。